

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：国際教養学部

学年：3

留学先大学：タンペレ大学

現在の学期：一学期

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	Finnish Society and Culture 14:00~16:00
火	Introduction to Socially Sustainable Societies 10:00~12:00-
水	Finnish 1 8:00~10:00
木	Introduction to Social Research 10:00~13:00
金	Psychology of personality Independent study
土・日	

履修科目や近況について

講義はディスカッションやレクチャー、ワークショップの混合型で、はっきり分かれているわけではなく、教授が講義をした後にディスカッションの時間が取られたり、この日はワークショップと予め決められている日があったりと、授業時間中飽きるということがありません。

また福祉や社会制度についての授業が多く、特に北欧の優れたそれを学びに来ている留学生が非常に多い印象を受けます。

街は非常に清潔で、戦争の名残を感じさせる新しさです。歩道が道路のように広く、人々のパーソナルスペースも日本以上に広いといえます。フィンランドには amazon がなく、セカンドハンドショップや古着屋がとても多く目立ちます。地元の保護猫施設でのボランティアも始めましたが、ペットショップが非常に少ない分、保護猫や保護犬を引き取る

という考えがかなり主流のようで、猫たちはすぐ引き取られていきます。街中の落書きはどれもアート性が高く目を楽しませてくれます。



気分が落ち込むときは、古本屋さん 1€で売られている 100 年前の古雑誌を買って、フィンランド語ですから解読に時間がかかりますが、この地で暮らす人々の生活における文化や精神性に思いを馳せて癒されています。



道に急いでいる人は一人もいません。服を着ていても好きなときに湖に飛び込み、森に入り、ここは野心や息苦しさを感じさせない場所です。人生においてなにが自分を幸せにしてくれるのか、いちばん大切にすべきものは何か、静かに理解している人が多いように見受けられます。



水鳥は人懐こく、そばまで寄っても逃げていきません。昼間の湖面は水鳥たちがせわしなく飛行機雲のように航跡を残して凧ぎません。夜になると湖面は停止し、水鳥たちがどこで眠っているのか不思議に思います。



L'Éternité(詩)を思い起こさせてくれる風景です。湖畔ではよくうつむいている方を見かけます。フィンランドでは鬱が大きな問題となっているそうですが、それに関してあまり驚きはありません。

海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：国際教養学部

学年：3年

留学先大学：Tampere University

現在の学期：Semester 2

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	PSY.403 Psychology of personality
火	10:00-12:00 HIS.M.001 Introduction to Finnish History
水	PSY.402 Cognitive neuroscience
木	SOS.090 Religion and Society
金	PSY.403 Psychology of personality
土・日	

履修科目や近況について

前学期を経てやっと、キャンパスを完全に使いこなせるようになりました。何曜日のいつの時間帯はどこのキャンパスのどの図書館が自習に向いているかとか（平日昼～夕方は City Centre Campus の Linna library 3F、一見満席に見えますが入って二度左に曲がったところが死角で空いてます。平日夜、土日はカードキーさえあれば 24/7 で入館可能な Hervanta Campus の Reaktori library がお勧めです。役に立つ情報が分かりませんが…）、混みあいがちな Ravintola のなかでどこの学食がいちばん快適か（断然 Ravintola Newton）など。自分がタンペレ大学の学生としての権利を使いこなせているように感じ始めています。フィンランドの大学は（大学のみならず中学、高校でも）部活やクラブ活動といったものがあまり盛んでない、というか日本に比べてほぼ存在しないも同然ですので、一種のライフワークに近い感覚で、地元の保護猫シェルターでの活

動は続けています。別れもありましたが、総じて友達が増えて日々楽しいです。
この頃はタンペレでもマイナス 20 度を下回ることもあり、ラップランドではマイナス 30 度近い気温で、やはり厳しい自然環境のもとでは生きる摩擦係数が高いといいたいしょうか……生きるうえでのコストが高い土地では、副次的な活動、娯楽が少ない傾向にあるのかもしれませんが。



とはいえ個人的にはこの気候、気温はかなり好みで、あたり一面の銀世界、モノクロの風景は水墨画のようで毎朝感動させられます。最近ではマイナス10度をきると酷く発汗するようにさえなりました。元々冬の厳しい寒さが好きで、体質的に寒さに強いとはいえ、日本にいたころでは考えられないような狂った体温調節機能が育まれております。



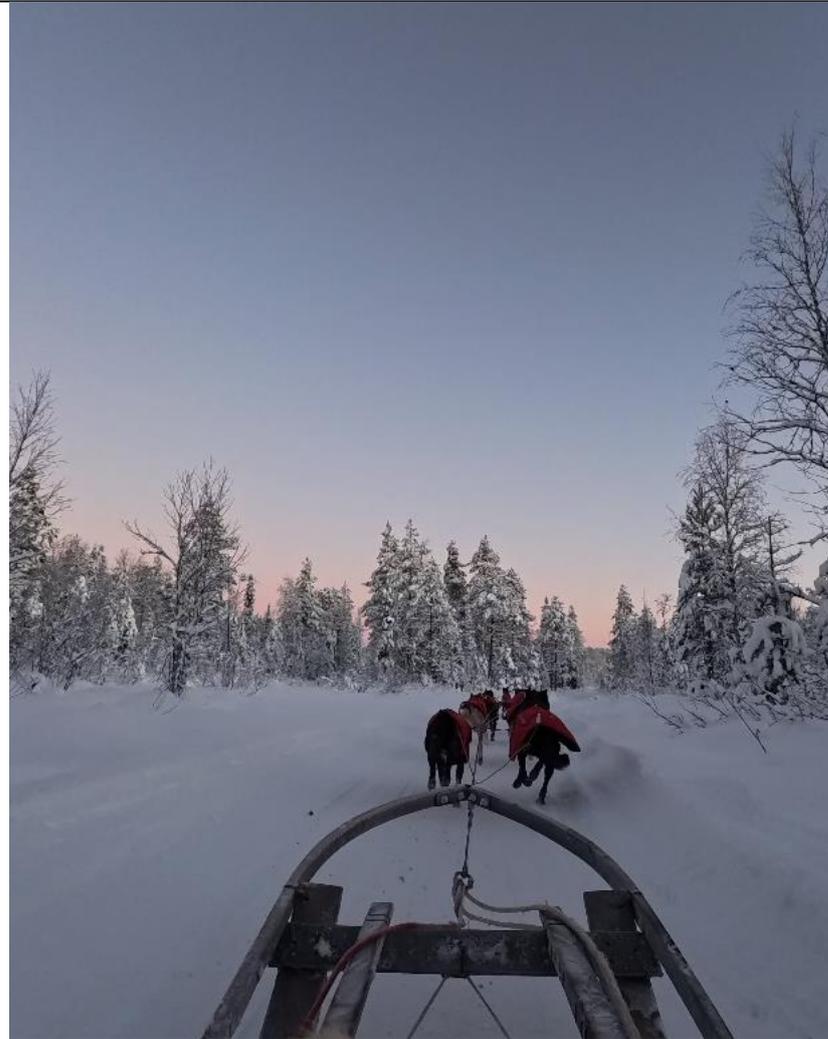
また北部に移動するにつけ、あまりの積雪により頻繁に歩道が消えており、泣く泣く道路で薪を積んだトラックの横を歩く羽目になったりと、アクセスの渋味を味わうこととなります。国際免許をお持ちでない方は、公共交通機関の限界をよく見極めて移動していただけたらと思います。

冬のあいだは美術館や博物館、古びた教会など、収入源が心配になるほど様々な施設が数カ月にわたって閉鎖されていきます。風景の美しさが増す代わりに、人工建設物が自然の厳しさに次々屈してゆくのは寂しいですが、それを補って余りあるほどの素晴らしさがあります。



気温が20度を下回ると日の出、日の入りの時間帯には空が淡い桃色に染まり、天気の良い日はダイヤモンドダストも目にすることができます。雪の結晶が太陽光で虹色に光ることをご存じでしょうか。雪に覆われた大地が七色に輝くさまは素晴らしいです。

1月にもなると大学でスケート靴がレンタルできるので、凍った湖のうえを好きなように滑って、湖畔のサウナまでの移動を時短することも可能です。飢えをおぼえたら、湖に穴をあけて釣りをすることもできます。サウナにはたいていロースターが常備されているため、魚やソーセージなど好きなものを持ち込んで焼いてみてください。



100 度のサウナで身体を蒸したあと、サウナの周りで一部溶かされた凍った湖へ飛び込みをする方も増えてきました。サウナ内で飲酒をしてから飛び込むおじいさん・おばあさんも多数見受けられます。お年を召したフィンランド人の頑健さは目を見張るものがあります。自分もこんな老人になってみたいという願望が否めません。あと四か月で帰るのが惜しくなってきました。与えられた機会に感謝して、残りの日々を大事に生きます。